

お知らせ

記者発表資料 | 平成29年 3月30日

- 同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

「国営備北丘陵公園管理運営プログラム」の策定について

【概要】

国営公園事業においては、公共事業の透明化と計画的な執行を図るため、平成32年度までの整備及び管理運営の方針等に関する「国営公園整備・管理運営プログラム」を策定・公表し、着実な事業の推進を図ることとしています。

このたび、「国営備北丘陵公園管理運営プログラム（案）」について、平成29年2月20日（月）～平成29年3月10日（金）にかけて、意見を募集し、皆様からいただいたご意見を踏まえ、「国営備北丘陵公園管理運営プログラム」を策定しましたので、ご報告いたします。

<問い合わせ先>

中国地方整備局 082-221-9231（代表）（平日・昼間）

建政部 都市・住宅整備課長 原 朋 久（内線 6161）

【担当】建政部 建設専門官 柳 田 敏 信（内線 6163）

夜間 511-6170

【広報担当窓口】広報広聴対策官 坂 屋 政 之（内線 2117）

企画部 環境調整官 松 本 治 男（内線 3114）

国営備北丘陵公園管理運営プログラムの策定について

1. 国営公園整備・管理運営プログラムについて

公共事業の推進に当たっては、情報公開に努めるとともに、国民の皆様から公共事業に対する理解を深め、支援を得ていくことが不可欠であるという観点から、全国の国営公園事業について、平成20年度に「国営公園整備プログラム」を策定・公表し、本プログラムに基づき事業を執行して参りました。

そして、今後も引き続き国営公園事業の透明化と計画的な執行を図るため、平成32年度までの整備及び管理運営の方針等に関する「国営公園整備・管理運営プログラム」を策定・公表し、着実な事業の推進を図ることとしております。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況などをふまえ、適宜見直していくものです。

2. 国営備北丘陵公園管理運営プログラム（案）についての意見募集結果について

国土交通省中国地方整備局では、平成29年2月20日（月）～3月10日（金）にかけて、「国営備北丘陵公園管理運営プログラム（案）」について、広く国民の皆様からご意見を募集しました。

お寄せいただいたご意見と、これに対する中国地方整備局からの回答、対応方針について、別添のとおりとりまとめましたので、ご報告いたします。

3. 国営備北丘陵公園管理運営プログラムの策定について

「国営備北丘陵公園管理運営プログラム」を別添のとおり策定いたしましたので、ご報告いたします。

国土交通省中国地方整備局及び三次河川国道事務所のホームページからダウンロード（PDF形式）して頂けます。

- 国土交通省中国地方整備局建政部：

http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kensei/toshi/index_kouenkanriunei.html

- 三次河川国道事務所：<http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/park/p06.html>

今回の意見募集にあたり、ご協力いただきました皆様へ御礼を申し上げますとともに、今後とも国土交通行政の推進にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

国営備北丘陵公園管理運営プログラム(案)に関する意見

No.	頁	ご意見	ご意見への回答、対応方針
1		常陸海浜公園の映像をテレビで紹介されているのを見たが、シーズンには、丘一面を埋め尽くすネモフィラが開花した風景が、丘全体が薄い青色に染まります。ひたち海浜公園のネモフィラが彩る青色の丘が美し過ぎる！と評判になっている。これは、見渡す限り、ネモフィラで覆われ雄大な印象を受け、異次元の世界を感じることが出来る。備北丘陵公園も丘の上に立てば、見渡す限り花畑、そういった異空間を楽しめる演出があると、リピーターとなって、何度でも行きたくくなります。	花の広場の修景につきましては、季節により花の種類や配置を考え、アドバイザーの意見を参考として取り組んでいるところです。今後も公園モニターの意見や来園者アンケートの結果を基に検討してまいります。
		イルミネーションなど延長し、パレンタインデーや、ホワイトデーに通じる取り組みなど拡大してほしい。尾道道など高速道路による山陽からのアプローチ、また、松江道もあることから、冬季も広範囲からの需要が見込めると思います。また、イルミも、広島や、福山など各地にライバルが出現しているところから、今新しいプロジェクトマッピングなどは新鮮で面白いと思います。変わったところでは、小規模ではあるが『るり溪温泉ポテポテパーク』の京都イルミエールは、最新の手法を用いたオーロラの演出で見たこともないイルミネーションの想像を超える美しい光景や演出をしている。京都府南丹市園部町西南部の山中にあり、るり溪の豊かな自然を臨むところ、話題性もある「プロジェクトマッピング」の演出は素晴らしい。話題性のある先導的な取り組み、中国地方で先駆的に実現すれば、人気をはくするのではないかと思います。	イルミネーションの取り組みにつきましては毎年趣向を考え、規模を拡大するなど工夫しながら取り組んでいるところです。今後も公園モニターの意見や来園者アンケートの結果を基に検討してまいります。
		ディズニーランドと比べるとはおかしいかもしれないが、やはり、何度来ても楽しい空間にしたいといけなないのではと思います。職員なども、園内をアニメのイメージにするとか、衣装を工夫するとか、対応も、それをイメージして一大アニメリゾートの世界等を演出し特徴を出していくと面白い。公園全体が、エンターテインメント性を持たせ、飾り付け、衣装、応接を作っていく。大人から子供まで、また、若い男女が楽しげに訪れる夢の空間にして行くと面白いと思います。	ご意見について、年間を通じ季節毎に種々のイベント企画を実施しているところです。今後も公園モニターの意見や来園者アンケートの結果を基に検討してまいります。
		冬季に訪れたこともあるが、平日などは入場者もまばらで職員の方が作業服でメンテされる姿は少しさみしさを感じます。全園開園ではなく、中央入り口周辺等、部分開園とし、料金を半額程度、内容は、中の広場等の集中開園に絞るなど工夫が必要ではないでしょうか。その他のところは、冬季のメンテ期間とすれば、施設的にも充実、利用者の満足度も向上するのではないのでしょうか。	ご意見について、冬季は天候も不安定で、積雪量により閉園や部分開園が余儀なくされているところです。今後も公園モニターの意見や来園者アンケートの結果を基に、冬季の運営方法について検討してまいります。
		最後になりましたが、どこか備北丘陵公園は老朽化してきているイメージが各所にみられます。もっと、特徴あるイメージを持って、集中的に事物を刷新し、中国地方の公園を先導してい。また、エンターテインメント性を追求し、注目を集める公園として発展していくことを願います。	老朽化の対応については重点課題と考えており、現在も適宜対応しているところです。今回は花の広場の花の展望台を改修します。今後も優先度や予算を鑑みながら対応してまいります。
2	2. (1)	①広域観光の在り方 「中国横断自動車道(中国やまなみ街道)効果を活かした広域観光・・・」と有りますが、備北丘陵公園は中国地方の中心地に位置しており、高速ネットワーク(中国道、横断道)のクロスポイントでも有る地の利を活かす取組が必要と考えます。 例えば、「高速道路網のクロスポイントを活かした広域観光・・・」と言った表現はいかがでしょう。中国横断自動車道沿線施設と連携も売りですが、他にも連携可能な施設があると思いますし、広島や岡山など都市部からの来園者を増やす工夫が必要と考えます。 また、中国横断自動車道効果という表現は、一般に理解が難しいと言うか、効果とは何なのか？開通したこと。利用者が増えた。等々？	ご意見の通り、効果を活かすと言う表現は理解が難しいと思われると思います。ご意見を踏まえ、高速道路網のクロスポイント(中国横断自動車道(中国やまなみ街道)・中国縦貫自動車道)を活かした広域観光という記述に修正いたします。
		②屋内施設の利用の在り方 自然との調和が基本に有りますが、建築物の屋内利用にも工夫が必要と考えます。 公園ですから、屋外が前面に出ていることは良いと思いますが、雨天の時でも訪れることが出来る魅力を高める工夫やその情報発信することにより、天候に左右されにくい来園が期待出来るのではと思います。	建築物の屋内利用につきましては、現在も一部でダンボール遊園地を整備するなど子供の遊び場となるスペースを設けているところです。今後も公園モニターの意見や来園者アンケートの結果を基に検討してまいります。
		③多様な者(幅広い年齢層)が楽しめる公園づくり 子育て支援、乳幼児を抱えた家族にも優しい公園施設への工夫、北エントランス等の活用・工夫・情報発信してはいかがでしょうか。	2. (2). (3)に記載しておりますが、北入口センターエリアの活用等により幅広い年齢層が楽しめる公園づくりの検討をしております。

国営備北丘陵公園管理運営プログラム

平成29年3月

国土交通省 中国地方整備局

目 次

1. 全体計画及び開園状況

(1) 全体計画	1
(2) 基本テーマ	1
(3) 供用の経緯	2
(4) 園内の主な施設	4
(5) 利用状況	5
(6) ストック効果	6

2. 平成32年度までの管理運営方針

(1) 重点事項	9
(2) 管理運営方針	9

3. 事業効果

13

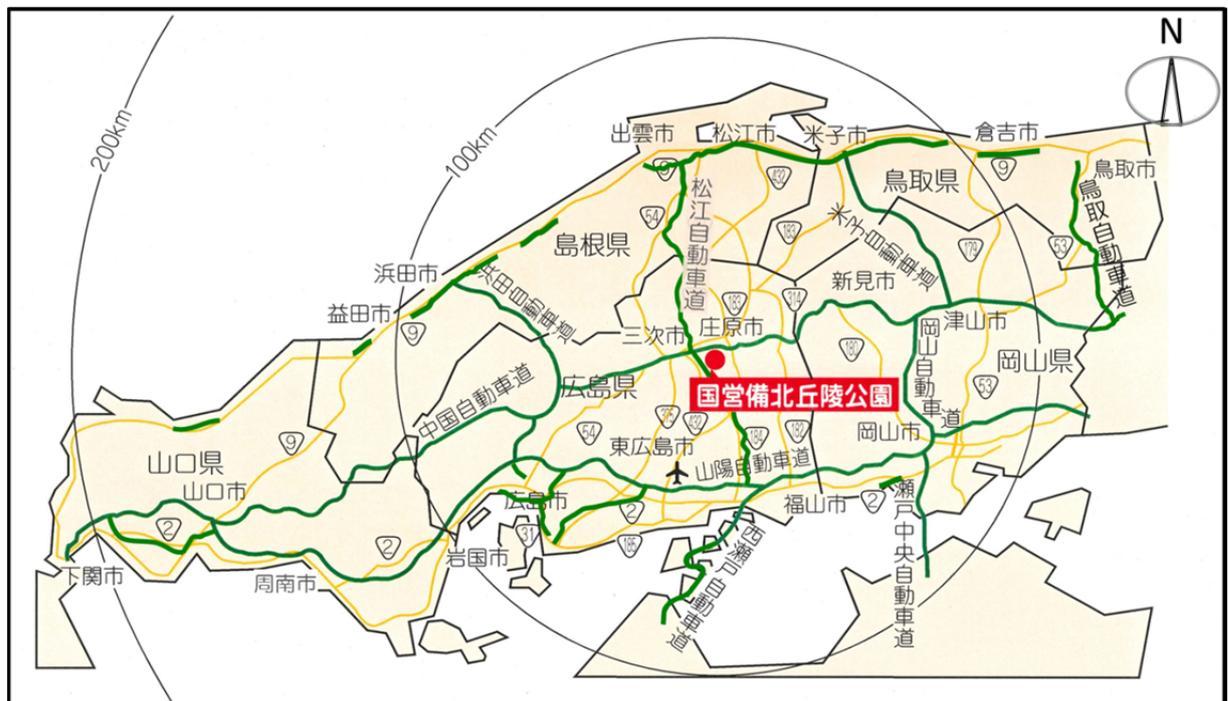
1. 全体計画及び開園状況

(1) 全体計画

本公園は、中国地方のほぼ中央部の広島県庄原市に位置し、県内最大のため池である国兼池と緑豊かな丘陵地を有する全国で11番目、中国地方では初めての国営公園（全体面積約340ha）として、昭和57年度に事業を開始しました。

周辺には「七塚原高原」や「みよし風土記の丘」、さらには「帝釈峡」などの文化・教養・観光施設があること、また中国縦貫自動車道、中国横断自動車道（中国やまなみ街道）を軸とした高速道路網により各主要都市圏と結ばれていることから、広域的なレクリエーションへの対応に適した場所に位置しています。

【位置図】



(2) 基本テーマ

備北地方のたおやかな景観と風土を生かし、「ふるさと・遊び」を基本テーマに、周辺環境との調和と連携を図り、森と湖に囲まれた緑豊かな自然の中で、地域の歴史・伝統文化とのふれあいや多様なレクリエーション活動を通じて、人間性の回復と向上の場となる公園を目指し、以下の通り公園整備の基本理念を定めています。

【基本テーマ】ふるさと・遊び

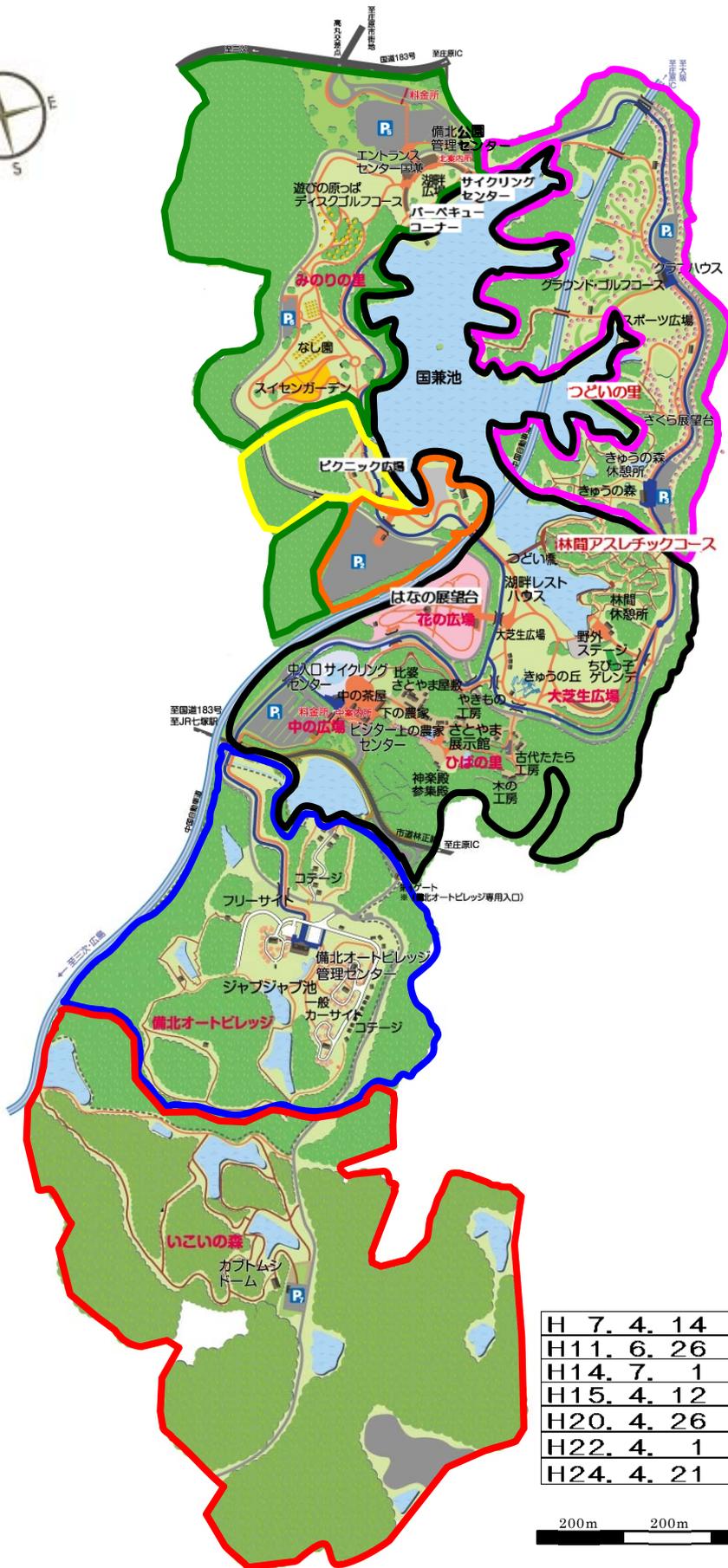
【基本理念】

- ① 緑豊かな自然へのいざない
- ② 中国地方の歴史や文化とのふれあい
- ③ 多様なレクリエーションへのしたしみ
- ④ 周辺環境とのつながり

(3) 供用の経緯

本公園は、昭和 57 年度に事業着手し、平成 7 年 4 月に「中入口センターエリア」および「ひばの里」80ha を第 1 期開園しました。その後、平成 11 年に「星の里（備北オートビレッジ）」46.5ha、平成 14 年に第二駐車場 3.2ha、平成 15 年に「つどいの里」49.1ha、平成 20 年 4 月に「北入口センターエリア」および「みのりの里」計 43.3ha を追加開園してきました。

平成 24 年 4 月には「いこいの森」109.3ha の追加開園を行い全園開園となりました。



H 7. 4. 14	供用区域	—
H11. 6. 26	供用区域	—
H14. 7. 1	供用区域	—
H15. 4. 12	供用区域	—
H20. 4. 26	供用区域	—
H22. 4. 1	供用区域	—
H24. 4. 21	供用区域	—



(4) 園内の主な施設

本公園は、6つのエリアと2つのセンターエリアで区分されており、各エリアには、四季折々の花を楽しむことができる「花の広場」、8haの広大な面積を有する「大芝生広場」、週末には多くの子どもでにぎわう「大型複合遊具“きゅうの丘”」、「空想冒険遊具“きゅうの森”」、「林間アスレチックコース」等の遊戯施設、平日でも多くの利用者でにぎわう「グラウンドゴルフコース」等、子どもから大人まで楽しめる多数の施設が整備されています。

【園内の主な施設】

エリア名称	施設名称
中入口センターエリア	ビジターセンター、中の茶屋、棚田、花の広場 サイクリングセンター、バーベキューハウス
北入口センターエリア	エントランスセンター国兼、ドッグラン 湖畔広場、サイクリングセンター
ひばの里	さとやま屋敷、神楽殿、参集殿、さとやま展示館 上の農家、下の農家 やきもの工房、木の工房、鉄の工房
水辺の里国兼池	国兼池
つどいの里	グラウンドゴルフコース、林間アスレチックコース きゅうの森、大芝生広場「きゅうの丘」
みのりの里	スイセンガーデン、なし園
星の里(備北オートビレッジ)	オートキャンプ場、コテージ、じゃぶじゃぶ池
いこいの森	カブトムシドーム、散策路
園内全体	サイクリングコース



星の里 オートキャンプ場



中入口センターエリア 花の広場



水辺の里国兼池 カヌー体験



いこいの森 カブトムシドーム



ひばの里 農家

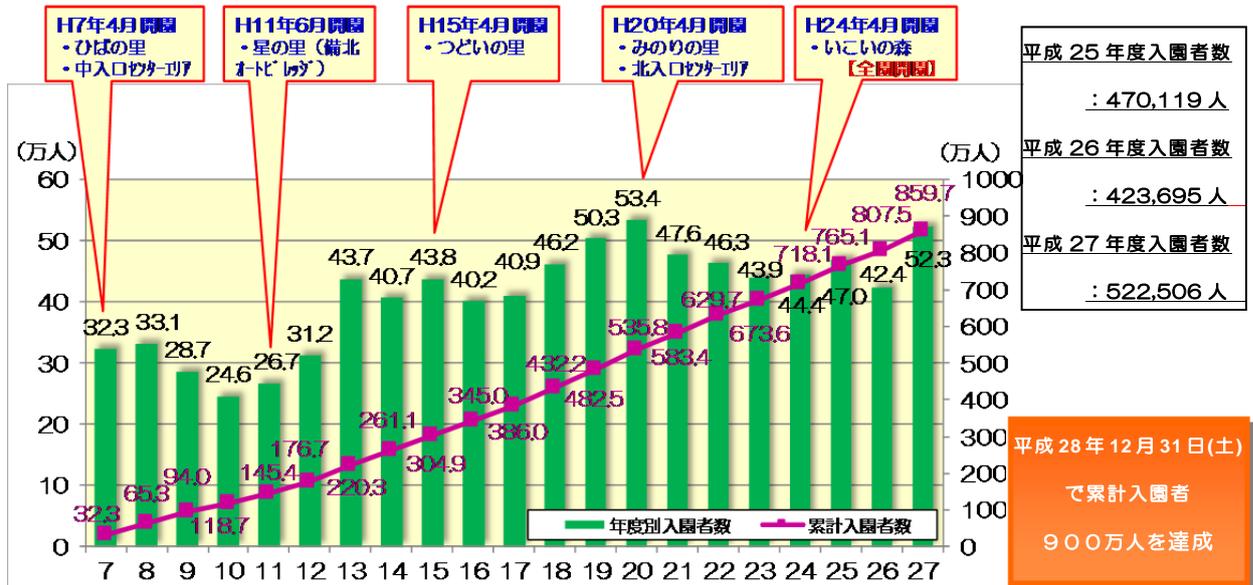


つどいの里 きゅうの森

(5) 利用状況

開園当時である平成7年度の入園者数は年間約 32 万人でしたが、その後の追加開園やニーズに対応した各種イベントの開催等により、平成 27 年度は、年間約 52 万人の方に利用していただき、平成 28 年 12 月末で累計入園者数が 900 万人に達するなど、中国地方におけるレクリエーション施設として、また観光拠点のひとつとして多くの方にご利用いただいています。

【年間入園者数の推移】



春まつり



夏まつり



秋まつり



ウィンターイルミネーション

(6) ストック効果

1) 自然環境保全

本公園は、地域の里山環境や、県内最大のため池である国兼池の景観を活かした計画・整備を行ってきており、生物多様性保全上重要な里地里山（環境省 2015.12）にも選定されています。

さらに、園内で平成10年に生息が確認された国蝶オオムラサキ（準絶滅危惧種）の保全、中国地方の里山を象徴するササユリの群生復原、県立広島大学と連携した貴重植物ヒゴタイ（絶滅危惧Ⅱ類）の保全、中国横断自動車道尾道松江線整備時に確認された貴重植物エヒメアヤメ（絶滅危惧Ⅱ類）の移植など、豊かな自然環境を生かした希少植物の生育場を提供、保全を行っています。



【公園内で成虫となったオオムラサキ】



【エヒメアヤメの保全】

2) 歴史文化の保全活用

本公園では、100年前の農村景観や農作業を再現したエリアを整備し、昔の生活を再現した空間を提供しています。また、日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」や、「田植え体験」、「稲刈り体験」、「わら細工体験」など、地域の年中行事を来園者に参加していただける様々な体験プログラムとして一年を通して提供し、地域の文化の保存・伝承を行っています。



【鉄づくり体験の様子】



【わら細工体験の様子】

3) 観光振興

本公園は、野外ライブ、花火大会、音楽コンサート、スポーツ大会など、中国地方を代表する大規模イベントから地域に密着したイベントまで多数のイベントの開催場所となっています。

また、冬季には、インターネットや雑誌の人気ランキングで高い評価を得ているイルミネーションを開催しており、毎年非常に多くの来園者でにぎわっています。

本公園では、豊かな自然環境、多様なレクリエーション、質の高いサービスの提供等によって、毎年多くの方に来園していただき、地域観光にも大きく貢献しています。



【大規模音楽イベントの様子】



【花火大会の様子】

4) 防災性向上

本公園は、庄原市地域防災計画において指定緊急避難場所として指定されています。

また、庄原市、市消防団、消防署、警察署、地元住民等が合同で実施する庄原市総合防災訓練や避難訓練の場として使用されるなど、地域の防災性向上に寄与しています。



【庄原市総合防災訓練の様子】



【避難訓練の様子】

5) ボランティアの育成

本公園では、周辺地域住民のボランティア活動による地域文化を継承するイベントや園内ガイド等を展開することによって、来園者と地域とのふれあいの場を提供しています。



【地域の子ども達と一緒に森の手入れ】



【ボランティアによる水鳥観察会】

2. 平成32年度までの管理運営方針

(1) 重点事項

平成32年度までは、本公園の基本理念を踏まえ、豊かな里山の有する歴史文化、自然を活用し、以下を重点事項として管理運営を推進します。

- 中国地方の歴史文化の保存・継承及び自然環境の保存・活用を図るため、体験学習の場の提供と体験プログラムの充実を図ります。
- 高速道路網のクロスポイント（中国横断自動車道（中国やまなみ街道）・中国縦貫自動車道）を活かした広域観光の促進に貢献します。
- 協働による公園管理を通じた地域の担い手の養成を図ります。
- 誰もが安全で安心して利用できる公園づくりを進めます。

(2) 管理運営方針

管理運営の実施にあたっては、以下に示す方針の下、引き続きサービス向上を図りながら、利用者の安全確保、コストの縮減に努めます。

地域の方々や公園の利用者との協働により、誰もが安心して利用できる公園の管理運営を進めます。公園での交流を通じた地域の自然、歴史文化の保存・継承や中国横断自動車道（中国やまなみ街道）効果を活かした広域観光を推進し、地域の活性化に貢献します。

1) 中国地方の豊かな歴史や伝統文化の保存・継承の推進

○里山環境ではぐくまれた歴史・伝統文化の保存、継承の取組を推進

- ・中国山地でかつて行われていた日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」の再現や古代米づくり、里山の四季の演示（服装・食べ物・暮らしぶり・年中行事など）を通じて、地域の歴史や伝統文化の保存・継承の取組を推進します。また、関連団体と連携して広域的に情報発信します。



【国選定技術者・ボランティア等の協力による「古代たたら鉄づくり体験」】



【地元保育所等の体験プログラム】

2) 自然環境の保全・活用と循環型社会の構築の推進

○里山の多様な自然環境の保全、活用の取組を推進

- ・国蝶であるオオムラサキをはじめ、多様な動植物が生息・生育できるような自然環境の保全、復元を進めるとともに、地元小学校等課外授業の学習の場を提供し、環境保全に対する関心を高める取組を推進します。
- ・公園内で発生したせん定枝や除草した草をチップ化、堆肥化して再利用する取組を引き続き行い、循環型社会の構築に貢献します。



【地元小学校と協働で整備した
ビオトープでの生物調査】



【オオムラサキの保護・繁殖の取組】

3) 連携による広域観光の推進、地域の活性化

○連携した効果的な広報を実施し、広域観光の取組を推進

- ・中国地方の観光情報の発信や企画展示を行うなど、中国地方の多様な観光資源を公園の利用者に発信するとともに、中国横断自動車道（中国やまなみ街道）沿線施設と連携した効果的な広報を実施し、広域観光を推進します。
- ・増加するインバウンド需要を取り込むため、地域と連携して海外に向けた PR 活動を積極的に推進し、地域観光振興に貢献します。
- ・庄原市、地元団体、NPO や民間企業など、地域との連携による交流イベントの開催等により、地域の活性化に貢献します。
- ・北入口センターエリアのエントランスセンター国兼を地域の情報発信の場や地域と公園来園者との交流人口の拡大による地域活力の向上の場として活用することを目的とした検討を実施し、地域の活性化を支援します。



【庄原市との共催による地域交流イベント
「さとやま夢まつり」】



【庄原市との共催による地域交流イベント
「こどもまつり」】

4) 協働による公園管理を通じた地域の担い手の養成

○地域住民や公園利用者等との協働による公園管理を推進

- ・地元住民との協働による花壇づくり、いこいの森散策ガイドボランティアなど、多様な主体が公園づくりに参加できる取組を充実することで、参加型の公園管理の仕組みづくりを進めるとともに、地域づくりに主体的に取り組む担い手の養成に貢献します。



【ガイドボランティアによる自然観察会】



【ボランティアによる花壇づくり】

5) 安全で安心な公園づくりの推進

○誰もが安全で安心して利用できる公園づくりを推進

- ・長寿命化計画に基づき、計画的かつ効果的な施設の補修・改修を実施し、施設の長寿命化をはかることにより、ライフサイクルコストの平準化に努めます。特に、老朽化が進行している展望台は早期に再整備します。再整備にあたっては、木材の利用の促進に努めます。
- ・遊具などの利用案内や巡視・点検を適切に行い、安全管理を徹底します。
- ・車椅子利用者の方も快適に利用できるルートを拡大します。
- ・ホームページや公園マップ、ガイドマップ、案内サインの多言語化、園内での Wi-Fi 環境整備を進めるなど、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、近年増加するインバウンドにも対応し、訪日外国人旅行者を含めた誰もが安全で安心して利用できる公園づくりを推進します。
- ・庄原市の緊急避難場所に指定されており、地震等の災害発生時に来園者及び周辺住民の方を受け入れる環境を引き続き維持・向上することで、地域の防災性向上に寄与します。



【バリアフリーに配慮した再整備を
計画している展望台】



【シルバー・障害者等優先の
無料園内移動施設】

6) 更なる入園者数増加に向けたイベントの展開

○季節に応じた多彩なイベントを推進

- ・四季を通じて多彩なイベントを開催し、来園者の多様なニーズに対応する様々なプログラムを提供することにより、更なる入園者数の増加を図ります。

<p>春</p>  <p>【春まつり】</p> <p>花の広場では、約280万本の春の花が楽しめます。</p>	<p>夏</p>  <p>【夏まつり】</p> <p>いこいの森カブトムシドームの中で、沢山のカブトムシと触れ合えます。</p>
<p>秋</p>  <p>【秋まつり】</p> <p>花の広場のメインエリアでは、約200万本もの様々な品種のコスモスが楽しめます。</p>	<p>冬</p>  <p>【ウインターイルミネーション】</p> <p>冬の夜空をイルミネーションの光があたたく包み込みます。</p>

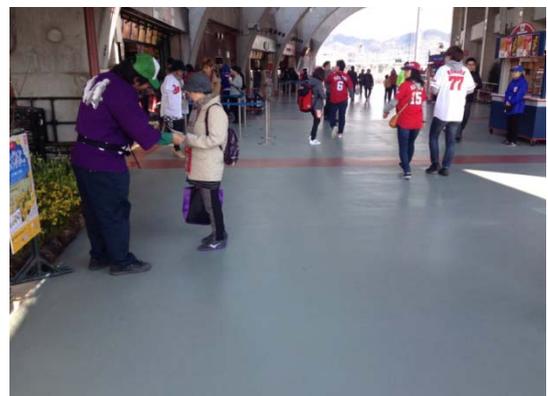
7) 積極的な広報展開

○効果・効率的な広報の取組を推進

- ・四季を通じた多彩なイベントの開催時においては、マスメディアへのタイムリーな情報発信や、チラシ、ポスター、リーフレットの配置・配付を行うとともに、地元自治体や他の観光施設と連携した広報活動を実施します。また、ホームページに加え、SNSでの積極的な情報発信を実施します。



【SNSによる情報発信】



【マツダスタジアムにおけるPR活動】

3. 事業効果

- プログラムの展開による歴史・伝統文化の保全や継承、里山の多様な自然環境の保全を推進することにより、地域独自の社会環境や自然環境の保全に寄与します。
- 庄原市や地元団体、地域の民間企業などとの連携を促進し、各々の強みを生かした取り組みを行うことで、地域の活力の創出や地域経済の活性化に寄与します。
- 参加型の公園管理の仕組みづくりを推進することにより、地域づくりに主体的に取り組む担い手の養成に貢献します。
- 公園の安全管理の徹底や庄原市と連携した定期的な防災訓練の実施等により、備北丘陵公園と地域の安全機能・防災機能を相乗的に向上させることに寄与します。

なお、本プログラムは、公園を巡る社会情勢の変化等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。